

労働安全衛生総合研究所（登戸地区）一般公開 参加報告

程内 和範 分析支援グループ

1. はじめに

厚生労働省所管の労働安全衛生総合研究所は、神奈川県川崎市（登戸地区）と、東京都清瀬市（清瀬地区）に研究施設がある。登戸地区は、働く人の「健康」に関する観点から、清瀬地区は、働く人の「安全」に関する観点からそれぞれ研究を行っており、平成 29 年度科学技術週間に合わせた各研究施設の一般公開が 4 月に開催されている。

今回、本学技術支援センターから、登戸地区の一般公開へ大塩、程内の 2 名が参加した。



写真 1 講演会場の様子（講演 2）

2. 一般公開の概要

期日：平成 29 年 4 月 23 日（日）

公開時間：13 時 30 分 - 17 時

場所：労働安全衛生総合研究所（登戸地区）

一般公開は上記の通り行われ、講演会 2 件、施設紹介・体験コーナー 7 件の公開プログラムが組み立てられていた。講演 1 は「近未来を見据えた働く人の疲労問題とその対策を考える」で産業ストレス研究グループの久保知英氏による講演、講演 2 は「職場環境改善と健康的な職場作り」で所長代理の甲田茂樹氏による講演であった。また、施設紹介・体験コーナーでは、「研究紹介ポスター展示」、「体力を測ってみよう！」、「電子顕微鏡による微小な物質の観察」、「粉塵の発生と測定」、「顕微鏡標本から知る細胞の形と役割」、「DNA（ディーエヌエー）ってなんだろう？」、「あなたの体は振動をどこで感じていますか？」が行われていた。

3. 印象に残った公開内容と感想

公開時間が限られており、全てをゆっくり見られなかったのは残念だった。以下印象に残ったプログラムの感想を、大塩、程内から紹介する。

大塩：講演で、通信の技術革新により、近い将来働き方が大きく変わるという話があった。生活の

中に仕事が入り込み、オンとオフの境界線が曖昧になるそうだ。オン・オフのメリハリのなさは睡眠不足に陥り、疲労の原因となる。疲労の解消には物理的、心理的に仕事から離れることが大切だと強調していた。オフがオフになるよう、労働の工夫と仕組み作りも重要であると指摘していた。自身の疲労対策としても、オン・オフのメリハリを付けて仕事に臨みたいと思った。

程内：人々の働き方と疲労の問題を取り扱った講演の中で、「仕事の反対語はなんですか？」という問いに対し、欧米人の多くが「遊び」と答え、日本人は「休息・休み」と答えるという紹介があった。ON（仕事）に対する OFF の考え方が、欧米人は日本人に比べより積極的であり、ON と OFF の切り替え、メリハリの大切さを考えさせられた。また防塵マスクと一般マスクの微粒子通過割合を比較する実験を見学し、捕捉率の歴然とした差から、防護具の適切な使用が大切だと実感した。

4. おわりに

登戸地区の一般公開に参加し、働く人の「健康」に関する研究の重要性がわかった。職場における労働安全衛生では、働く人の「安全」と同様に働く人の「健康」を守ることが非常に大切であった。